

議会 だより



小豆島町

No. 25

平成24年8月1日発行



ほ て
秋の実りを願う、火手の列

～ 中山地区の伝統行事「虫送り」～

- 審議議案
6月定例会について 2
- 一般質問
8名の議員が質問 4
- 住民の声・まちの力 8

病院再編に向けた第一歩



6月25日に開催された、小豆医療組合開設式（小豆総合事務所）

6月 定例会

平成24年6月定例会は、6月20日から22日までの会期3日間で開かれました。
町長から平成24年度的一般会計・特別会計補正予算3件のほか、条例改正4件、工事請負契約1件、そして小豆医療組合の設立についての合計9議案が提案され、それぞれ原案通り可決されました。
一般質問は8人の議員が、町政の課題について幅広く質問し、町の考えを問いただしました。

地域おこし協力隊員、3名に

補正予算

一般会計（第1号）

追加補正予算額は、1億2306万3千円で、補正後の予算総額は82億3306万3千円となります。

今回の補正は、瀬戸内国際芸術祭と連携した活動による地域おこしを行う「地域おこし協力隊員」が追加される費用やコミュニティ助成事業、高齢者地域活動拠点整備事業、そして小豆医療組合の発足に伴うものです。主なものは、次の通りです。

総務費関係

地域おこし協力隊員関係 750万円

芸術等による町おこしに関わる隊員2名分に係る費用
(下枠内参照)

瀬戸内国際芸術祭に向けた動きも本格化

アート施設デザイン委託 600万円

瀬戸内国際芸術祭開催に合わせ、芸術性のあるトイレ等の施設デザイン設計の委託料



2013 春の瀬戸内国際芸術祭ポスター

地域おこし協力隊について

人口減少や高齢化等の進行が著しい地域において、県外の都市地域などから人材を誘致し、「小豆島町地域おこし協力隊員」等として委嘱を行い、地域住民との共同活動支援を実施することで、地域力の維持・活性化を図ること目的としています。

初代隊員に任命された真鍋邦大さんは、島の特産物の魅力を新しい形で発信する企画や「現代版二十四の瞳」といった新しいかたちの塾を作る企画をしています。



委嘱状を交付される真鍋さん

コミュニティ助成事業

750万円
浜条・神浦・二面の太鼓台修繕費用
(宝くじ助成事業)



高齢者の活動拠点整備も続く

民生費関係

病児・病後児保育利用
料無料化事業補助金
11万6千円

第3子以降3歳未満
児の病児・病後児保育
施設利用料を無料にする
ための費用

高齢者地域活動拠点整
備事業補助金
1,400万円

町内の自治会館など
のスロープ整備等に係
る費用



トイレ改修、スロープ取付
など改修が進む

仲人復活促進事業
補助金 70万円

30代後半の方々を対
象に出会いの場の提供
などを行う団体（レッ
ツ・マレッジ応援隊）
に対する補助金

衛生費関係

小豆医療組合負担金
5,904万7千円

費用及び、新病院建設
にかかる小豆島町負担
分

選挙

6月22日、小豆医療
組合（管理者 塩田幸
雄 小豆島町長）が設
立され、各町6名ずつ
で構成される組合議員
に左記の方を選出しま
した。

- 秋長 正幸 議員
- 森口 久士 議員
- 渡辺 慧 議員
- 安井 信之 議員
- 藤本 傳夫 議員
- 中村 勝利 議員

なお、事務所は香川
県小豆総合事務所東館
2階（土庄町測崎）に
設置されています。

工事請負契約

工事名 安田ポンプ場
下部工事
契約金額
1億5,855万円
契約相手 (株)竹本組



安田地区低地帯浸水対策の要

5月7日 第2回臨時議会

5月7日に第2回臨
時議会が開催され、「教
育委員の任命」など人
事案件が4件と専決処
分の承認議案3件が提
出され、原案どおり承
認、可決されました。

固定資産評価委員 3名を再任

現在3名の方が固定
資産評価委員となつて
おりますが、その方々
の任期が平成24年5月

10日をもって満了とな
りますので、引き続き
左記の3名の方が再任
されたものです。

- 塩田 洋二氏（馬木）
- 藪脇 修氏（安田）
- 三木 忠臣氏（中山）

教育委員会委員に 岡本芳郎氏を選任



岡本芳郎氏

横手繁氏（神懸通）
の任期が平成24年5月
11日を持って満了とな
りますので、後任に岡
本芳郎氏（安田）を選
任することに決定しま
した。

現在の委員は左記の
方々です

- 黒木 治夫氏（馬木）
- 岡田 恕枝氏（池田）
- 熊坂 泰忠氏（福田）
- 後藤 巧氏（安田）
- 岡本 芳郎氏（安田）

委員会活動報告

〈教育民生常任委員会〉

平成24年4月20日、5月11日、5月25日、6
月6日の計4回委員会を開催し、次の意見を
出しました。

「病院統合、中学校統合について」

〈調査の結果〉
①小豆島の医療の充実
を図り、医師を確保し
てゆくためには、2町
による組合設立が不可
欠である。執行部から
説明のあったスケジュ
ールに沿って、進めて
いくことに賛同した。

②中学校の統合につ
いては、現在統合に向
ける調整作業を進めて
いるところであり、今
後の状況に応じて、委
員会を開催し調査し
ていくこととした。

③パブリックコメント
で出た意見及び建設予
定地の現有施設の利用
については、今後の基
本構想策定のなかで、
十分検討願いたい。

委員会で示された工程表（池田中学校建物を福祉・医療・その他施設として活用する場合）

| 区分 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 |
|--|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 新病院建設 | 基本構想 | 基本設計 | 実施設計 | 工事着工 | 建設工事 | 新病院オープン |
| 池田中学校施設 の活用(例) (ふれあい広場、 保育施設、図書 室など) | | 構想 | 基本設計 | 実施設計 | 施設改修 | 施設の活用 |

一般質問

障害者雇用について

町「小豆島の環境は不十分。個別事例を研究したい」

質問 中途障害者の雇用の場の確保は、地方において行政のかかりが不可欠では。

シルバー人材センター・障害者団体が関わる事も地道だがその代行としていいことと思う。

答弁 最終的には障害者の方の働く場を確保することが、厚生労働省の障害者福祉政策の考え方だ。

小豆島の状況は、障害者の雇用という点で進んでおらず不十分だ。

そういう中で新しい動きが始まっており、障害者の方がオリーブの栽培・中山の棚田で田植えと稲刈りをしている。

今年度から始まる配食サービスについて、

小豆島の現状を言うと、中途障害に限らず、生まれながらの障害の方も十分な状況でないで、どうすれば雇用が進むかは研究したい。障害者福祉というのは、障害の種類によっても対応がそれぞれ障害に応じて対策が変わってくる。



障害者による農業就労体験事業（中山）

かるはずであるから、個別に対応するように努力したい。いずれにしても個別事例を社会福祉協議会の担当課に行ってもらって、実践ができるかどうかというところから始めたい。



安井 信之 議員

新病院建設と

交通安全について

町「安心して病院に通院できるような移動手段も含めて考えたい」

質問 今の国道を渡って病院に入るパターンは危険だ。健康を願って通っている病院で交通事故に遭っては何もらない。

病院の趣旨からも交通安全は大切だ。計画段階からバス停そのものを病院に引き込み、安全性を確保すべきでは。

答弁 新病院は、安心して病院に通院できるようにする。交通事故が起こる可能性を高めるといようなことがあってはならない。

バス停を病院の敷地に引き込むには、これから具体的な建設作業

6月議会の一般質問において8名の議員が質問に立ちました。



中江 正 議員

が始まるので、設計段階から申し上げて実現するように努力したい。また、新病院は遠方が多くなるので、移動手段をどうするか課題がある。オリーブバスだけでは不十分だと思っている。出来るだけ遠くの方にも安心して

通院できるような移動手段を考えたい。高齢者のマイカー通院は事故の確率が高くなるので、なるべくマイカーを利用しないでも通院できるような移動手段を考えたいと思う。



通院時の安全確保の対策を

49 災害・51 災害の 冊子作りの準備は

町「きつかけを作っていたら、

冊子作りに着手したい」



森 崇 議員

質問 昨年3月11日に東日本大震災があり、東北では「てんでんこ」に逃げると言われた。私は助け合うことこそ大切だと思う。昭和49年、51年の災害経験を一人ひとりが記録に残すべきで風化させてはならない。

比べても今のダムは小さく、新内海ダム106万トンも全国で730番目である。活断層も小豆島にはない。「冊子作り」はどこまで進んでいるのか。

答弁 49・51災害の冊子作りはまだ着手できていない。一日も早く

作業に入りたいと思っている。

過去の災害の経験に学ぶことは、まことに大切で必要不可欠である。冊子作りのきつかけを民間サイドでやってもらえればと思う。本格的な防災対策も早急に取り組んでいく。

空き家・廃屋について

町「条例の制定も含めて検討する」



谷 康男 議員

質問 小豆島町内には多くの空き家が存在する。なかには管理が十分でなく廃屋になりつつあるものも少なからず存在する。

地域の活性化にむけて取り組みが行われている中、廃屋に近い空き家が点在している

は、地域のさびれ感が払拭できない。行政として何ができるのか。

答弁 この問題は小豆島町がいま一歩活性化するために避けて通れない課題である。条例の制定も含めて検討する。



増える空き家の管理をどうするのか

小豆島周辺海域の水質および水産資源について

町「水質については正確な調査を行う。遊漁船については島の利益となる施策を考える」

質問 最近アサリがいなくなつた、カレイやアナゴが獲れなくなつたなどの話を耳にする。魚介類の豊富な海を次の世代へ引き継ぐため、県や大学の研究機関と連携し環境保全に取り組んでいくべきでは。

県外からの遊漁船に関して漁業操業の邪魔

にこそなれ島に対してのメリットが感じられないが。

答弁 水質・水産資源については、まず現状把握を正確にする必要がある。海洋政策財団が調査を希望している。実現すれば解決策をつかめると考える。遊漁船については、

地元の漁業者と遊漁者でルール作りをして、これを小豆島のルールとして、県外の遊漁船に対してでも啓発を行う。

農林部門、観光部門などが連携をとり、県外からの遊漁船が島の利益となるよう施策を考える。

景観については古江を含め43力所から写真を撮ったが「生活空間」からダムは見えない。香川には1540万トンの満濃池があり、1万4000個ある池に



紙芝居で「てんでんこ」を訴えている

住民の声を尊重した

教育・行政運営を

町「適正な手続きを踏んで進んでいる」

質問 池田中学校に新病院を建設すると報道した問題は、住民に対して事前は何の話もないやり方は民主的行政運営ではなく、住民無視で許せない。町長は「学校統合はあくまでも住民合意が大前提」と答弁した。

地方自治法は、住民の意思に基づいて事務処理するとある。住民が主人公の行政運営をすべき。教育基本法は、不当な支配に属することなく、政治権力は教育を支配してはならないとある。教育行政の本旨に沿って、住民の声を尊重した教育行政を行う必要から中学校統合は白紙撤回を。

住民が安心できる

地震、防災対策が急がれるのでは

町「色々な対策を進めていく」

質問 南海トラフ巨大地震における小豆島町は地震が震度6強、津波は最大4mと推定。こうした場合の対策が急がれる。

海抜表示の設置、安全確保できる避難場所、お年寄りや障害者等救出対策の明確化等が必要だと思いが。



防災訓練にて

答弁 海抜表示は、港、学校、公共的施設等を計画。土砂災害の予測区域を作成。また、災害弱者の支援計画を進める。



村上 久美 議員

答弁 適正な手続きを踏んで進んでいる。地元、保護者への報告が遅れ、順序が逆になったもので、中学校統合の進め方は間違っていない。

小豆島町うちのみ 漁師村条例等の改正を

町「条例は見直す」

質問 「漁師村」の実態に見合った名称変更を。また指定管理者の指定申請は、改正前の「町長、議員又はその親族が経営する会社等は申請できない」とする条文に戻すべきでは。

答弁 内海漁協が撤退し、できるだけ早く見直しの条例を提案する。指定管理者申請は改正前に戻す。

限界集落と災害対策について

町「町単独事業でも早急に
対策できるような知恵を絞る」

質問 西村地区に原とう集落がある。戸数30戸、人口53名、65歳以上の人口比率が73%である。

昨年9月の集中豪雨によって里道と水路が被害を受けた。災害箇所の復旧について地元負担金のいらぬ災害復旧対策費事業として申請したが、不採用であった。

多くなってきた。どこの地域に住んでも住民の安心と安全を考える「法」と運用のあり方が大切だと考えるが。

答弁 災害復旧はなくしてはならないもので、どこの地域に住んでい

農林水産課の助言をもらい、単独事業として申請し採用された。採用されると費用の5割は県、2割は町、地元負担が3割である。地元負担の3割は限界集落にとっては大変である。しかも、1年が過ぎても復旧していない。2次災害も心配である。

小豆島町には、限界集落と言われる地区が



小さな集落にも「安全・安心」の対策を



新名 教男 議員

でも一日も早い復旧をすべきである。国や県の補助事業の対象にならない小規模なものについても町の単独でできることなので、知恵を絞って早急に対策できるようにする。

「連合運動会」の復活を

町 「復活を検討する」

質問 旧内海町では、年に一度、幼児から老人会までが参加して連合運動会が開催され、各公民館を主体に地域の輪と力の競い合いが繰り広げられていたが、合併後中止。地域の絆、活性化が注目される今こそ、町民挙げての連合運動会の復活を。

質問 旧内海町では、年に一度、幼児から老人会までが参加して連合運動会が開催され、各公民館を主体に地域の輪と力の競い合いが繰り広げられていたが、合併後中止。地域の絆、活性化が注目される今こそ、町民挙げての連合運動会の復活を。



新しい形の連合運動会の復活を

公民館に正職員の配置を

町 「試験的に配置してみたい」

質問 地域活動の核となる公民館の活性化事業に取り組んでいるが、町で唯一の出先機関であり地域のまとめ役として今以上の活動が望まれている。そこで公民館へ若い正職員を配置し、住民との交流・地域の核として活躍を

期待したいが。

答弁 公民館は地域を強くする拠点であり、職員が鍛えられる場でもあると思う。制約もあるが、来年度試験的に若手職員を1、2ヶ所配置したい。



大川 新也 議員

幼稚園・保育所のあり方について

町 「施設の充実を含め検討したい」

強める上でも必要であり、町民のニーズに合った形で復活を検討する。

質問 今年度になり内海保育所の入所児童増で職員室を教室に使っていると聞いたが、今後の幼保教育のあり方は、どう考えているのか。

答弁 入所児の急増で急ぎよ対応した。今年度就学前教育検討委員会を設け、幼保教育のあり方のビジョンを施設の充実を含め検討したい。

国に国保の国庫負担増額を求めている

町 「国庫負担削減は問題だが、広域化は賛成だ」

質問 国保への国庫負担削減で、国保財政の赤字と保険料引き上げが起こり、滞納も増えている。国に対し、国庫負担増額とさらなる保険料引き上げにつながる国保の広域化中止

を求めている。

認知症の家族の介護者への支援を

町 「教室等の開催を計画している」

質問 認知症の家族を介護している家族が、悩みや不安の相談や交流をする場が必要ではないか。

答弁 介護者を対象とした教室、交流の開催と同時に、認知症の高齢者の見守りを行う形で、町内の各地で計画している。

通学路の安全確保を

町 「危険個所の再点検等、対策は行っている」

答弁 国庫負担の削減は問題だが、広域化は県単位で助け合うことで賛成だ。

質問 登下校中の児童らが犠牲となる交通事故が全国で相次いでいる。通学路の危険個所や実態、安全対策の取り組みは。

答弁 通学路の危険箇所は22カ所、そこを通る児童は272人。小学校の通学路の危険箇所点検を2年に1回1校ずつ実施し、標



登校・下校時の安全確保を

町長の政治姿勢について

質問 国に対して、消費税増税・原発再稼働反対を求める考えは。

答弁 消費税は賛成。個別の原発の是非は、言えない。



鍋谷真由美 議員

住民の声 Vol.25



住みよい町

中村 巖
(平木自治会会長)

「平木は旧池田町の玄関である」とよく聞かされた言葉である。我々も常日頃、環境整備に気を配っている。低い土地で川下である故、小川に毎日のように色々なゴミが流れてくる。空き缶・ペットボトル等は後を絶たない、毎日のように流れてくる、満潮になれば海の潮で押し返してくる。我々が拾い上げて処理をするが、これも日課となってきた。地区の皆さんのご協力により出来ることは有難い事であるので継続していきたいと思っている。

防災対策も遅れています、今後のことを考えながら町と相談しながら進めていきたい。町へのお願い!! 病院の統合は我々にも見えてきたが、子ども達の安全を考えると旧内海町の3小学校は校舎の耐震



平木交差点にある「しあわせの像」

関係もあり、安全な校舎を建て早急に統合を考えるべきであると思う。

もう一つ大きな問題、前回は失敗したが、もう一度「島は一つ」を考えてほしいと思う。

今後行う事業は一町でなければ前進はない。我々も出来る限りの協力はしたいと思う。



坂手アスリートクラブ

(陸上競技)

開幕中のロンドンオリンピック、数々のアスリート達の姿に感動していることでしょう。

人生は一度限りなら悔いは残したくない。そんな思いで始まった坂手アスリートクラブも今年で9年目。

色々な人たちに支えられ毎日頑張って練習しています。目指す目標は、様々。運動会で一番になりたい、マラソン大会で優勝したい、県の代表選手になりたい。一人ひとり地道に練習しています。

ぜひ一度、見学に来てください。

- 場所：坂手運動公園
- 時間：月曜～土曜 18時15分～19時30分



議会活性化特別委員会では、6月定例議会より試行しながら検討することで一般質問を「一問一答」方式で行うことと、一般質問に限り反問権を導入することになりました。県下9町では、3町が「一問一答」方式を、反問権は2町が導入しています。

本来議会の活性化は議会での「言論の府」と言われるように議員活動の基本は言論です。特に言論を尊重し、その自由を保証しています。もちろん民主主義を基盤とする議会においては議会の秩序を重んじることは当然であり、節度ある発言が要求されます。議会において議員と町との議論が十分なされ、その様子を傍聴者が受け止められる議会でなければ住民が関心を寄せてもらえません。多くの皆さんが関心を持っていただける議会にするため努力します。

編集後記

本紙に対するお問い合わせは

●発行 小豆島町議会 ●編集 小豆島町議会広報編集特別委員会

〒761-4388 香川県小豆郡小豆島町池田2100-4 TEL (0879) 75-1100 FAX (0879) 75-0108